

御前様の祠

あすっこ紹介

関原康成さん 美智代さん

名スポット

農村舞台寶榮座

読者のみなさんの“声”

御前様の祠

毎年4月、足助神社では足助次郎重範公を祀る足助春まつりが盛大に行われますが、その重範公の奥方と娘が栃本地区で祀られているのはご存知でしょうか。重範公の娘である滝野は、南北朝時代の関白二条良基氏の妻となり、後に犬山城主となる成瀬氏の始祖、基久を産んだと云われています(諸説あり)。

何百年も前から脈々と栃本の住民に受け継がれ守られてきた祠。現在も毎年11月に全戸参加して式祭礼が行われています。

(鈴木悠太)



★ あすっご紹介

今回のあすっは、萩野地区に住む関原康成さん（55歳）と美智代さん（50歳）ご家族です。一昨年に新居を構えて中学生の優心さんとともに名古屋市から移住されました。長年の夢だった田舎への移住についてお話を聞かせてくださいました。



いつから田舎への移住を考えていましたか

康成さん 小さい頃は父の出身地である新城に遊びに行っていたので、田舎に住みたいという思いがずっとありました。名古屋に住んでいましたが、仕事の関係で知った「豊森なりわい塾」に4期生として参加してから、藤岡、猿投、旭など豊田市方面に来るようになりました。そこで畑や米作りなどの体験をするうちに、こちらに移住したいという思いが強くなりました。

美智代さん 子どもが小さい時でもできるだけ自然に触れ合わせたいと思っていて、田植え体験などに参加していました。この子も「田舎は良いな。空気がおいしい」、「田舎に行きたい」と言っていたこともあり、小学1年生の頃から移住先を探し始めていました。

豊森なりわい塾はどうでしたか

康成さん 豊森の活動の中で、自分が求めていたものはこれだというのを実感できました。自分の中でもややもやっていた必要なものや大切なものを見せてくれるようなところでした。



美智代さん 私も9期の卒業生です。塾長の澁澤寿一先生は気取らず謙虚な方ですし、押し付けがなく、フィールドワークなどを通して自分なりの解釈で何かをみつけるといった活動をしました。

移住先はどのように見つけましたか

康成さん 空き家など、いろいろ探していたのですが、良い物件が見つかりませんでした。たまたまネットで、島さん（島好常・島いずみ建築研究所：萩野地区）が紹介されていたこの土地を見つけて、見に来てみたらすごく良い場所で、是非お願いしますということになりました。3区画の売り出しでしたが、7~8組の応募があったようです。

移住してからのお仕事は？

康成さん 自宅でITコンサルタントの仕事をしていて、お客さんのところへ週に1回程行きます。また、足助病院を拠点にしている三河の山里コミュニティパワーでも働いています。電力を小売りして得た利益で地域の問題解決に取り組む会社です。

家づくりのこだわりは？

康成さん 地域材を使うのと壁を漆喰でやりたいという希望がありました。土地を農地転用して、島さんに相談しながら設計からやってもらって、完成までに2年かかりました。自分たちで漆喰を塗る体験会をやったり、友人に KOTEart (コテアート) をお願いしたりしました。2階をプライベートな空間にして、1階はオープンな、いろいろな人来てもらってワークショップができるような場所にしたいなという思いがあります。

美智代さん キッチンも広めに作って、地域の人と地域のもので一緒にご飯を作れるような場所にしたいという思いがあります。旭地区のとても料理上手なおばあちゃんがよく遊びに来てくださって、友達と一緒に味噌づくりなどを教えてもらったりしています。地域の方をお呼びして一緒に作りながら教えていただいたレシピを書き起こして残す活動をしたいと考えています。

こちらに来てよかったことは？

優心さん 自転車にハマっていて、こっちに来たら走りたい放題なのがよかったのと、塾に行くのがなくなった分、自分の時間が増えました。



美智代さん 名古屋にいるときはとにかく時間が速くて追われた生活をしていました。こちらでは、近所の方が突然訪ねて来て1~2時間おしゃべりしてという壁のないつながりが残っているところがすごく居心地よく感じています。

康成さん 来る前から、萩野NPO「結の家」でやっているトンカン木工塾や、田んぼづくりに参加しています。隣に入られた方もそうなのですが、そこで事前にいろいろな人と仲良くなれたのはよかったですね。



足助の外に住んでいる方へのメッセージを

康成さん 帰って来たいけれども仕事などで難しい方も多だろうなと思います。ただ、これからは仕事のやり方も変わってくるので、Uターンする方が増えるといいですね。そういう人と移住してきた人が交わり合うことで、違うものがいろいろ生まれてくるかなという気がしています。

(麥田翔生)

豊森なりわい塾

一般社団法人おいでん・さんそん、豊田市、トヨタ自動車株式会社、特定非営利活動法人地域の未来・志援センターによる官民の共働事業。公募で塾生を募集し、豊田市の農山村(足助、旭、下山)をフィールドに「あるく、みる、さく」ことを通して学び、これからの生き方、働き方、社会のカタチを考える塾。これまでに9期218名の卒塾生を輩出。

HP : <http://www.toyomori.org>



農村舞台寶榮座

香嵐溪から東へ5kmほど向かった萩野自治区の怒田沢ぬたざわ町に農村舞台『寶榮座』がある。豊田市で唯一、回り舞台と滞在型の楽屋を持つ農村舞台だ。棟札には明治30年3月12日再建と記される。再建するとき、村役衆は「太くて良い木を出した人に、歌舞伎の良い役をつける」と呼びかけた。呼びかけに応じ、それぞれの家の山で一番良い木を競って寄付したと言われている。

大正10年の改造時に直径5.32mの車輪回転式回り舞台が造られた。昭和35年には萱葺屋根をトタンで覆い、現在に至っている。かつては歌舞伎や芝居の挙行が盛んに行われていたが、少子高齢化など時代の流れの中で寶榮座も活動を停止し、集落の歌舞伎も絶えてしまった。しかし、その伝統は萩野小学校の萩野子供歌舞伎に引き継がれ、地域の誇りとなっている。

過疎化により、13戸の小さな集落である怒田沢町での維持が困難になってきたため、平成29年に住民有志による『農村舞台寶榮座協議会』（会長：青木信行氏）が設立された。広く会員を募集し、寶榮座を活かした文化による地域づくりに取り組んでいる。芸術活動を通じた交流により、「芸術文化村」として再興し、にぎわいと活気を取り戻して集落の存続につなげる。



今年度の寶榮座協議会主催イベントとしては、7/4(日)に吉例寶榮座〈七夕歌舞伎〉ハラプロジェクト公演、9/19(日)に寶榮座寄席が開催予定だ。定期的に開催している寶榮座中国映画を観る会と寶榮座仏教講座は、それぞれ4回予定されている。また、合宿練習など滞在型の利用も可能だ。(利用料無料、光熱水費の負担あり)

イベント、施設利用とも、新型コロナウイルス感染症の状況などにより、中止・変更となる場合がある。詳細は、農村舞台寶榮座協議会のホームページにて確認のこと。

(高木伸泰)



住所:豊田市怒田沢町平岩5 ホームページ:<https://houeiza.jimdofree.com>

読者のみなさんの声をご紹介

読者アンケートのご意見・ご感想の一部を紹介します!他にもたくさんのご意見をいただいています。QRコードでスマホからアクセスしてご覧ください。

・あすっご紹介

同級生のお名前とお写真に!思わず「わぁ」と声が漏れました。連谷は足助の中でもまた端で、今の自分の環境とは別世界のようなのですが、同じ年頃の兄弟を育てる身としては、あのような環境の中での子育ては子どもたちの経験値が本当に違うだろうと感心しました。／山間地で3世代が仲良く生活している様子が文章でよくわかりました。こうした記事を読むと益々Uターンしたくなる気がします。

・ご感想

実家に帰省してもなかなかゆっくり足助を観光することもないので、地元を離れて20年ほどでいろいろ変化があることに驚いています。これからも良い記事を期待いたします。

・新規登録

瀬戸市に住んでおり、介護・福祉の分野の仕事をしています。足助まちやどスクール、ローカルアクションスクールに参加し、足助のこれからについて興味を持ちました。



ご意見ご感想